

令和7年度学校教育評価表（木戸小学校）

別紙

学校名 大津市立 木戸小学校

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

| 項目 | 評価の観点 | 自己評価 (3・2・1・0) | 教員の考える成果(◎)と課題・提案(☆) | 学校関係者からの意見等 | 学校関係者評価 (3・2・1・0) |
|----------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 主体的・対話的で深い学び | 1 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践 | 2.7 | ◎学級活動だけでなく授業においても意見を聞き、認め合うことで安心した学級集団作りができています。また、全校的にも年間を通してのたけなわ活動での取り組みで異学年の交流にも成果が現れている。 | ・ICT活用について使用環境の違いがあることも考慮して頂けるとありがたい。 ・少子化の影響もあり、児童数の減少が進んでいるが、当学校では毎朝給食指導、教育、交流を進めていただいている。 ・基礎的な学力定着について強化されたい。 ・内面的な子どもへのケアは良い。 ・BUNBUN作文、スマールーク等語力の向上の取組が継続されている。今後対話を通した学びを推進してほしい。 ・地域コミュニティの大切さを学ぶ授業を実施してほしい。 ・相手の考え、意見をしっかりと聴き自分の思いをまとめていくというプロセスは今後大切に行きたい。 | 2.8 |
| | 2 協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む） | 2.7 | ◎特別活動（異年齢）や学級の充実を図り、児童中心の活動を増やす（子どもたちの願いが叶う学校・学級）。 ◎校内研究のテーマもあり、対話的で協働的な授業実践をしようとする意識が、学校全体で高まっている。 ◎志賀北幼稚園や比良保育園との連携や近隣小学校（小松小）とのオンラインなどできるとよい。 ◎校内研究では、研究授業を多く行うことができた。授業前にも多くの職員が集まって相談する姿が見られ、日常的に教材研究に取り組めた。 ◎来年度も授業を見よう週間を実施する。 | | |
| | 3 主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会の実施 | 2.6 | | | |
| 道徳教育の充実 | 4 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施 | 2.7 | ◎掲示物や啓発グッズの作成だけでなく、日頃の活動からいじめを許さない意識はアンケート結果からも根付いていると思われる。 | ・気になる言葉について、なぜその言葉がでているのかをまず探ったうえで、子どもには道徳的理解を身につけてほしい。 ・道徳授業公開による実践は教員にとっても良い機会である。 ・道徳授業公開等いろいろの機会を通して保護者にも理解が図られている。今後も続けてほしい。 ・「心地よいあいさつ、礼儀」は学校、地域全体で取り組む内容だと思いがより充実を図りたい。 ・道徳の授業公開は不必要な学校はないと思う。外へのアナウンスは難しいと思うが、落ち着いている学校だから参観者が少ないのでは。保護者も授業に参加するというスタイルの授業づくりを面白い。 | 2.7 |
| | 5 ものごとを様々な視点から考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究 | 2.4 | ◎道徳教育はもちろんなこと様々な場面でいじめを許さない道徳的実践力を育てたい。 ◎自分の思いを言葉にすることが苦手な児童が多く、自分の思いをもっと発言したり表現したりできるような工夫をする必要がある。 | | |
| | 6 保護者等への道徳科の授業公開 | 2.6 | ◎道徳参観では、子どもだけではなく、保護者の方々にも自分事として考えさせるような内容を実施した。 ◎引き続き公開は行いが、参加していただく保護者の方が増えるような方策（アナウンスの仕方、テーマなど）を考えるべきである。 | | |
| 体力づくり | 7 たくまいし心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善 | 2.6 | | ・びわろ大学との連携・交流は貴重な体験だと思える。 ・木戸リンピックの取り組みは各学年を越えて上級生が下級生を世話するようなたいへん良い取り組みと考える。 ・創造性ある楽しいスポーツの導入が良い。 ・木戸リンピックや大学との交流など体力向上のいろいろな取組が行われている。今後も運動に楽しく親しみ態度の育成に努めてほしい。 ・地域の自然環境を生かした体力づくりも考えてほしい。 | 2.9 |
| | 8 体力づくりを推進する運動実践 | 2.7 | ◎体育の教材研究会を開き、指導の仕方や経験について共有することができた。 ◎実践の指導法についての研修を来年度も継続していく。 ◎夢つプロジェクトでびわこ成康スポーツ大学と交流し、自校でも継続可能な環境を整えた。 ◎びわこ成康スポーツ大学の連携が続いているが、新たな計画を考えていく必要がある。 ◎本年は食育に関して外部機関を多く使った学びの体験ができた。 ◎木戸リンピックや体育の授業を通して、休み時間や日常における運動への動機づけとする。 | | |
| | 9 生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成 | 2.6 | | | |
| 指導改善 (組織的・計画的) | 10 学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善 | 2.8 | ◎学年で獲得すべき基礎的な学力を、毎時間、毎々の到達度について確認してきたことにより、取りこぼしがないように努めている。 ◎来年度も校内研修は、学年1本ずつしていきたい。（模範型の授業を目指す）と主体。 | ・成績2割制による、子どもと教師のつながりの時間を大切にされることは前向きで子どもにとっても良い。 ・主体的な学びについて、教職員の理解が図られている。授業改善を通して魅力ある授業を構築してほしい。 ・楽しい授業の中でもオン・オフができるような教育がうれしい。 ・教員の残業を減らすことはとても良い。 ・働き方改革を語る時に、持ち帰りの時間数を議題にあげることが、仕事の内容、持ち帰りを語るほうがよいのでは。 | 2.7 |
| | 11 教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上 | 2.7 | ◎P4の活用技能が全体的に向上していると感じる。 ◎非常勤の教職員は研修にも参加できるが、非常勤などの教職員にも研修ができる工夫が必要。 ◎仕事をもち帰ることを止め、勤務時間に終わるよう努力し続けている。自分の余裕が子どもたちにも伝わると思う。 ◎学校・教員が担う業務に係る区分をもとに更なる役割分担・適正化の推進に向けた取組を進める。 | | |
| | 12 働き方改革の取組と教育活動の質の改善 | 2.9 | | | |
| 育ちと学びを支える連携 | | | | | |
| ① 家庭・地域との連携・協働 | 13 子育てや家庭教育に対する保護者への積極的な支援 | 2.6 | | | |
| | 14 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用 | 2.6 | ◎気になることがあれば積極的に保護者連絡をして、情報共有に努めることができた。 ◎各々の家庭での課題に学校だけが支援できないので、関係機関と連携した支援が必要である。 ◎民生委員さんや愛のバトロール、お話し会、ゲストティーチャーなど地域の方とつながりを感じることができた。 ◎地域や大学との連携を今後と大きくし、交流をしたり、時には学校に来ていただいたり、開かれた学校にしたい。 ◎家庭につながる継続した防災教育が5年生から6年生にかけてできている。 ◎カリキュラムをもう一度整理し本校における、防災教育の位置づけ（総合や社会等の教育課程の整理）を再確認する。 | ・電子ゲーム遊びが主流となり子どもの興味も主となっている現状を感じる。保護者自身がその危険性（全てではないが）を知ることの必要性を感じる。 ・開かれた学校として家庭地域との連携協働ができている。子どもことでの成果が押し流れる内容については、段階を踏んだカリキュラムの目的を整理したい。 ・地域資源の活用が充実している。バングアップにかかる労力は大変だと思いが、今後も拡充することを目指す。 ・下校見守りなどで地域・学校と連携できているのは、この学区の良い点である。 ・tatooru借借で学校の様子や緊急連絡等容易にできるように。保護者や地域の方々も学校に集まる機会が少なくなっており、地域の方々も何らかの活動を考えることが必要ではないか。 ・高学年（5・6年生）に防災の学習や防災と連携して実施できた良い。 ・保護者への密な連絡はとも嬉しい。 ・6年間、さらに中学の期間を見越したカリキュラムづくりを大いに期待している。防災もその一つ。地域の人をもっと活用した方がよい。 | 2.7 |
| | 15 防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の課題に応じた安心・安全な学校づくり | 2.6 | | | |
| ② 保幼小中の連携 | 16 子どもと保護者の交流や教員の出前授業 | 2.4 | ◎志賀北幼稚園・比良保育園との相互交流が盛んになった。 ◎今後も交流を維持し、時には、オンラインを利用した交流も考えていく必要がある。 ◎教員による授業参観や教材設計等を行うことができた。幼稚園の研修会にも複数の教員が参加できた。 ◎校内研究に志賀北幼稚園や比良保育園の先生に来てもらってもよいのではないかと。 ◎志賀中学区（4小1中）での情報交換が進んできた。 ◎多くの教職員が校種間のカリキュラム研究に関わるべきである。 | ・異種校間の交流は大変重要。教職員が参加しやすい行内体制を整備できるとよい。 ・5・5交流など、幼稚園との連携が続けられている。当該学年だけでなく低学年や保護者にも活動の様子をお知らせできる良いと思う。 ・幼小とのつながりは強くなっている。子どもと先生との交流も充実してきた。 | 2.7 |
| | 17 校種間の授業公開や合同研修会 | 2.3 | | | |
| | 18 保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究 | 2.3 | | | |
| 組織的体制の充実 | | | | | |
| ① 生徒指導体制の充実 | 19 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の課題の早期発見、日常的な予防指導 ※ | 2.7 | ◎普段から子どもと会話をする中で、話しやすい関係を築いた。 ◎教員同士がコミュニケーションを取り合い、児童への指導の仕方などについて協議しながら、本校における生徒指導の課題を改善するよう努める。 ◎ケースによって、どのように対応するか、どの関係機関とつながりなどを相談することができた。 ◎複数対応を心掛け、担任が一人で抱え込まない組織づくりを意図する。 ◎地域の方々や、保護者の方々の協力が有り子どもたちの安全を見守ることで家庭・地域・学校の連携をはかることができている。 ◎関係機関と連携をさらに密にすることで、情報などを家庭、地域に発信していく。 | ・全体的な投げかけの他、個別対応の必要性も感じる。子どもが場所により見せる姿が違うことがあり、どの姿もその子の姿と捉えたい。必要に応じて個別に考えていきたい。 ・会話による相談体制づくりは、子どもにとって話しやすく悩み聞いてもらえることは良い。 ・スマホやSNSの扱いは本校でも課題であると思う。計画的な指導を固めるとともに、適切な対応が求められる。 ・即日に対応できるような連携がとれていると思う。 ・単級学年が増えるが同性の大人に相談しやすい環境づくりができていくか。 ・生指も向かってから対応するのでは遅いから、常に危機感もちながらコミュニケーションを速くしておくことが大切。 | 2.7 |
| | 20 生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※ | 2.8 | | | |
| | 21 家庭・地域・関係機関との連携による指導 | 2.7 | | | |
| | 22 個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用 | 2.8 | ◎個別の指導計画の定期的な振り返りと見直しができるよう、計画的に研修を受けた。 ◎今後も支援計画を全教職員が把握し、日々の対応を行うべきである。 ◎学期1回校内委員会にて課題を共有し、共通理解を図ることができた。 ◎教師の児童の観察力、特に児童の困り感を分析する力が必要であり、今後も研修が必要不可欠である。 ◎関係機関と情報共有を行い、児童の特性等について、多角的にとらえ、指導・支援について模索することができた。 ◎引き続き関係機関と学校が連携をとり、子どもと保護者からの相談を受けられる体制や、情報を提供する機会を整えていく。 | ・校内ワングにおける教職員のかかわり等、子どもに関する担任との連携も見えたと理解しやすい。 ・教職員の対応力、学校全体で特別に支援を要する子への組織的な支援体制について、本校教育の重点のひとつとして取り組みを続けてほしい。 ・子どもと保護者との関係がいつもこのように良好な様子が見られたい。また、外部の機関も有効に活用してほしい。 | 2.8 |
| 23 組織的・計画的な特別支援教育体制の確立 | 2.6 | | | | |
| 24 関係機関と連携した相談体制の充実 | 2.7 | | | | |
| 学校満足度 | 25 児童生徒の学校満足度 | 2.7 | | | |
| ※ 児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入) | | 2.63 | | | |
| ※ 保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入) | | 2.31 | | | |

※ 特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

※ 各校の学校評価書から上記の1～25の観点にかかる自己評価および学校関係者評価を抽出し、本表にご記入ください。
※ 評価の項目と関連が考えられるSDGsの目標を参考として表示しています。